回想法センター便り・12月号

平成２７年１１月３０日発行
発行　龍ケ崎市回想法センター
龍ケ崎市平台 5-9-7
電話・FAX　0297－65－4443
e-meil pia-kaiso@etude.ocn.ne.jp
ｈｐ　wwwpiakaiso.sakura.ne.jp

今年も残すところあとわずかです

我が家で暮らしたい

母(１００歳)が自宅で転倒しました。母は肩が痛い、背骨のところが痛い、右足の付け根が痛いと痛いところが定まりません。ジットしていれば痛くないというので、連休中のことなので我が家で様子を見ていました。

主治医に「今後の介護のためにも骨の写真を撮っておきなさい」と、動けない母を救急車で病院に搬送しました。幸いに骨折ではなく腰の骨にひびが入ったため足を動かすと激痛が走るとのこと。そこで、激痛が治まるまで入院となりましたが「動かなければ痛みがない」ので自宅で静養となりました。

しかし、我が家ではついつい体を動かしてしまい激痛が走り病院に逆戻りしました。そこで、ケアワーカー、ケアマネージャーと相談し、柵つきの介護ベッドを介護保険で借り、在宅で見守ることにしました。高齢の母には環境の変化は認知症の進行を加速させてしまいます。家族が負担なく出来るサービスを見つけることで、我が家で暮らす方法もあることを学びました。

食べ物を大切にしたい

まだ十分に食べられるのに、中身は何も問題ないのに外箱が壊れたり、汚れたりしたお菓子。サイズが規格に合わなくて売り物にならない野菜や果物。こうした食品の「ロス」は 2012 年度の推計では 642 万トンだそうです。

一方で、その日の食事に事欠人がいます。今、日本の子どもの６人に１人が「貧困」と言われています。食品関連の企業から売れない食品を譲り受け福祉施設や生活の苦しい家庭に無償で提供する「フードバンク」。「食べ物の無駄をなくすこと」と「困窮した人々に手を差し伸べる」二つの目的が出会い結びついたのがフードバンク活動です。全国に４０ほどある団体のうち、１１の団体が「全国フードバンク推進協議会」を発足させました。

「食べ物を粗末にすると罰が当たる」と食べ物を大事にしてきた戦後の物のない時代を生きてきた世代にとっては、考えられないようなことが起きているのですね。「食は命」。食べものは大切にしたいと思います。

１２月の予定

おしゃべりサロン
龍ケ崎市役所地下で開催
12 月 14 日(月)・2 時から 4 時まで

認知症家族会あおぞら
龍ケ崎市民活動センター多目的室で開催
12 月 2 日(水)、1 月はお休みです

問い合わせ先　龍ケ崎市回想法センター　０２９７－６５－４４４３　担当　赤嶺